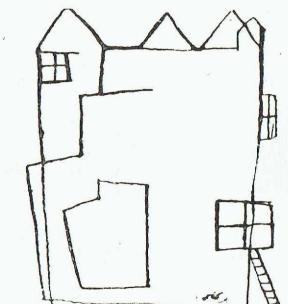


## 劇団のことば



各地の放送劇団もぞくぞくと舞台公演を行っている。そういう意味においても我々は舞台にたまらない魅力をもち、愛着を感じている。できたら近い将来、市内の各劇団との合同公演として郷土の芝居を造り上げ演説の特別例会としてとり上げてもらえる所まで是非持ちこみたい。それが希望である。

### ●劇団なかま

始めは芝居が好きで芝居をやりたいという単純な集合体「劇団若いむれ」でした。

そしてまる二年過ぎて、演劇という芸術創造による自分自身の内部の充実、一つの仕事を完成させるための困難と斗つて得た自信を、社会生活の一つの歴車であるじぶんの人生に投映させ、更に同じ目的、同じ行動を通して結ばれる「なま意識」のより強い確かめ合い。そうした方向へ踏み出したのです。

これからも、児童劇には力をそそぎたいと考えています。

### ●劇団だるま

「演劇を通じて、団員個々の人間形成の育成を計り、さらに演劇が日常生活の一部として親しまれるよう」と昭和34年2月、當時卒業を真近かにした高校生の手で劇団だるまは創立された。

以来5年間、市の芸術祭を初めとし、移動公演、(地方公演)盲学校訪問、市内の敬老会や子供会へとその誇る若いエネルギーの可能な限りの活動を行なってきた。主なレパートリーとしては

34年(初演)

「おらあおめえのもぐらもち」

35年

「ありふれた奇跡」

36年

「夕鶴」

37年

「ピエールバトラン先生」等

38年

●浜松放送劇団

彼は映画スターよ。あのは舞台人だ。彼女はテレビのタレントね。あのは声優だわ。

これは一時代昔の話である。今はもう何んでもかんでもやらなくてはいけないし、又出来なくてはならない時代なのだ。従つて、東京をはじめ大阪、名古屋等

## 古川氏宅の客間

三月  
洋間

主人古川さん(五十五)

この家の女、秋子

橋柱時

南山

## オ10回 浜松市芸術祭演劇部門

●11月22日(日)午後12時半開演

●浜松市民会館

心のもたれる内容である。

単に面白く、おかしく見せるのは商業演劇の十八番であろうが、私達は仕事の余暇を芝居造りについやすそこにある価値を生甲斐を姿勢の中に取り入れて創造の場を通じて自分を変えて行くと共に励みとしていきたい。

亦特にわが浜松工場演劇部の伝統である、職員家族の地区慰問についても伝統の上に更に進歩したミュー

ジカルを組み続けていくものでございます。

国鉄 牧 野

### ●浜専演劇部

私達の演劇部の生立ちとしては極めて古いけれど、部員のうちには女子が多く、結婚適令期を迎えて退職する方が多く、統制上さはめてむづかしい現況でありますので、常に他の劇団と合同的作戦に出る場合は多いわけです。従つて公社の文化祭と云つた場合は内部的でありますので、軽演劇的なものを実施しております。今後の方針としては内部の充実をはかり、なんとか形においてまとめて行きたいと考えていますが、どうも思うように実施して行けない現況です。今後共よろしく御指導の程おねがい申し上げます。

### ●新津青年会

いつ頃から誰が始めたものかは明らかでないが、私共の幼い想い出の中には芝居がある。その小っぽけな村芝居が、毎年新陳代謝の行われる青年会活動の中で引きつがれ受けつかれて、いつの間にか芸術祭参加10回を記録することになった。この間、多くの先輩達が残していくてくれたものは、土に生きる人間の姿をみつめて取り組むことであった。これからも、次から次へ新しい若い力が、先輩の後を継いで入ってくるがこのエネルギーが十数年の蓄積の上に、更に大きく更に充実したものに育て上げていくことだろう。

### ●國鉄浜松工場演劇部

客席のかすかなざわめきも舞台上の動きがはげしくなると共に止る。展開されるドラマは身近なもので関

## 第十回演劇公演によせて

浜松市長 平山博三

## 市民演劇の開幕を迎えて

浜松市教育長 皆川英夫

浜松市芸術祭は、昭和三十年第一回演劇公演を開催してから今年で十周年の記念すべき年を迎えました。この間年々歳々日を追つて、全市挙げてのこの秋の行事が盛大になつてしまひましたことは喜びに堪えません。

このように盛んになりましたのは、自立、職場、青年会が各自の異なる立場でありながら一体となつて平素から演劇活動を行なつてきた働く若い人たちの不斷の努力研鑽の賜ものであります。

これらの人々が、浜松市における文化向上の旗手としての役割りを充分に果たしていることは、市民の皆さんも深い理解をもつて御支援下さることと確信いたします。

そして、多くの人々に演劇の豊かな稔りを共に分かち合おうとするアマチュア演劇が、更にこの浜松で発育を遂げ、ますます文化都市としての発展に寄与されることを、心より希望いたします。

第十回の意義ある芸術祭は美術展や音楽が終わつて、次はよいよこの演劇です。ことは自立劇団三つ、職場一つ、それに青年会代表の一つが加わつて時間の割りふりが心配なほどの盛会です。

働く人たち、年若い市民たちの、芸術活動へのきかんな意欲を心から喜ばしく思い、観客の皆さんと共に力づよい拍手を贈ります。

素人のまじめさと、真剣な稽古の仕上げとは、よし未熟さが残つても、観客の好意と支援が期待されますし、そここそ舞台とのあたゝかい気持ちの交流が生まれます。

芸術祭の演劇万才！

## プログラム

### ☆式次第

開会の辞 捷辞 演辭  
挨拶 祝辭  
閉会の辭

### ☆上演順序

1. わが青春のときに (中沢幸夫 作) 1幕 ..... 12.45~ 1.55

劇団なかま

2. この小児 (牧野照彦 脚色) 1幕 ..... 2.10~ 3.20

国鉄浜松工場

3. 寒鴨 (眞船 豊) 1幕 ..... 3.35~ 4.45

新津青年会演劇部「浜ツ子」

4. 彦市ばなし (木下順二 作) 1幕 ..... 5.00~ 6.10

劇団だるま

5. 虚構の城 (村越一哲 作) 3幕 ..... 6.25~ 8.55

浜松放送劇団

# わが青春のとき

一幕

劇団なかま

# この小児

一幕

# 寒鴨

一幕

新津青年会 演劇部「浜ツ子」

国鉄浜松工場

## ■スタッフ

制作：石津義之

演出：中沢幸夫

演出助手：磯部智子

大城多佳夫

舞台美術：近藤喜代子

長谷川憲夫

竹口絹枝

武末弘之：大城多佳夫

坂口圭子：竹口絹枝

## ■スタッフ

演出：榎田治美

監督：早川幸夫

大石一男

飯尾政太郎

(専売)

井ノ口恭義

野田幸夫

(専売)

伊熊広至

(本田)

小楠良

水野勝弘

岡本厚

小楠豈一

小楠光

松木勝之

小楠訓美

松木つたゑ

小楠紀美代

水野重弘

小楠加代子

松木弘毅

厚位一

衣裳	照明	効果	演出	小楠
化粧	明	果	出	豈一
道具	山口喜昭	（専売）	榎田治美	厚
衣裳	内山清美	（専売）	早川幸夫	一
道具	太田喜夫	（専売）	大石一男	弘
化粧	内田定雄	（専売）	飯尾政太郎	毅
道具	松本直	（専売）	井ノ口恭義	豈一
化粧	伊熊広至	（専売）	野田幸夫	弘
道具	（本田）		（専売）	一

## ■キャスト

杉原卓司：武井紀夫

京子：長谷川憲夫

安岡紺佐子：鈴木捷子

塚本明：石津義之

武末弘之：大城多佳夫

坂口圭子：竹口絹枝

## ■上演まで

昨年の「廃園」につづいて、ふたたび創作劇を取上げることになったとき、わたしたちは、第一稿の台本のまわりに集まり、四日間にわたって、主題、構成、展開、そして人物の性格や感情などについて意見を交し、不適当と思われる部分は削除して、セリフの一行一句に至るまで、何べんも読み合って、この上演台本を決定しました。

そのために、約四分の一の分量を改変しましたが、全員が充分に理解し、納得できる作品をつくることが出来たのは、大きな収穫でした。この経験を生かして、この次には、最初からみんなの力を結集した、集団創作の作品をつくりたいと考えています。

## ■ドラマの中から

一年前に友人を死なせた山へ、今年も又、登ろうとしている若者がこのドラマの主人公です。しかし、これは決して冬山登攀の物語でもありません。

なぜ彼が山へ行こうとしているのかという主題を中心に、彼のパートナーの若者の絶望感、彼を愛する娘の悩み、人を愛することを知った彼の妹の悲しみ、世界中で一人しかみたことのない花を探そうとする彼の弟など、さまざまな青春群像を通して、人間が生きることの意味、青春を正しく生きるということは一体どんなことなのだろうかを、わたしたちは考えたのです。

仕事を持っているわたしたちが、なぜ演劇をするのかということと、それは同じことなのです。

若い人たちの抱く人生への懷疑、じぶんに忠実に生きる人生の苦しさ、それを乗り越えて行く勇気と情熱

わたしたちはそれぞれの人生を、しっかりとみつめようと努力しました。

このドラマの中にこめられているわたしたちの考え方を、あなたたちの人生に反映させて見ていただければ、うれしいと思います。

## 解説

巡査

小野田勝春

あらすじ

巡査

（専売）

新津青年会

ズブの素人ばかりがやること故、泣いて笑つてならともかく、泣いて泣いての練習である。でも皆んなやる。一生懸命やれば、何かが得られることを願つて……。

多くの先輩達は、そうして去つていったが、芝居はその中で育つて来た。

誠に辛苦苦しいことではあるが、これからもうして育つていくだろう。  
偉そうなことを云うことになるが、「山がそこにあるから登る」と云う登山家の言葉がある。我々の演劇はその言葉の様なものかもしれない。



彦市ばなし 一幕

劇団たるま

虚構の城 三幕

鉄でつくられたお家のの中で

鉄と鉄と噛み合う音が時を知らしてくれるところなら、働く人は皆たくましい？男であることは間違ひありません。

支那の農業

演	製	村	田	政
舞	台	監	督	作
臺	監	監	出	.....
舞	督	督	土	.....
舞	助	助	師	健
臺	手	手	村	.....
監	近	藤	田	.....
督	藤	光	政	.....
助	光	德	.....	.....
手	德	.....	.....	.....
置	.....	.....	.....	.....
裝	.....	.....	.....	.....
照	明	劇	團	司
明	明	團	美	.....
果	岡	裝	.....	.....
服	本	置	.....	.....
部	一	部	.....	.....
茂	孝	.....	.....	.....
喜	.....	.....	.....	.....
衣	.....	.....	.....	.....
効	.....	.....	.....	.....
裝	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....
鈴	.....	.....	.....	.....
木	.....	.....	.....	.....
真	.....	.....	.....	.....
澄	.....	.....	.....	.....

市 彦 長谷喜代治  
殿 様 古賀昭隆  
天狗の子 林美智子  
市 彦 長谷喜代治  
殿 様 古賀昭隆  
天狗の子 林美智子

嘘をつく事は、良い事か？悪い事か？それを語る前に、まず人間は、どうして嘘をつくのか？こゝにも、一人、嘘つきの典型が居る。その名は、彦市。嘘をついて自分を、有利に生き様とするが、結局嘘がばれて、自分が苦しくなってしまう。

嬉しい嘘、楽しい嘘、苦しい嘘、嫌な嘘、と人それぞれに体験している事であろう。

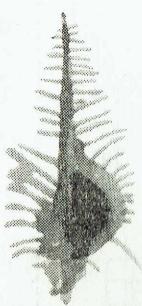
舞上の彦市も、私達と同じ様な人間ではないだろうか、だから私は達は、何故か、この彦市を、憎む事が出来ないのです。

愉快な殿様と、可愛いゝ天狗の子と、嘘つき彦市が織りなす明るい楽しい物語です。

生きている事の楽しさ、苦しさ、そういう物事が彦市の社会を生き抜く為のバイタリティーとなつて、

監督をつとめたのがもしれません。  
私達は、私達だけでなく、観客の皆様方と共に  
よりよい社会を築く糧として、演劇に取り組んで  
きました。

劇団員不足と、女優不足の現在、皆様の参加を  
団員一同、心より歓迎致します。  
ファイトのある方、だるまの劇団員になりませ  
んか。



TEL (54) 1111 内

中で苦しむ主人公は叫ぶ「間違っているわ……何かが狂っているんだわ……どこかで、『虚構の上に虚構が重ねられる、お城の八層櫓のように……。そしてそれが固められて不動のものになつて行く——その城には選ばれた者以外近寄る事さえ許されない』

解説	クレジット
中央開発と東西観光は観光面においてしのぎを削りて斗っている一流のライバル会社である。ところが箱根で一敗地にまみれた中央開発は次の決戦場である浜名湖では非相手を大きくなりードしなければならない。そこで考え出した策がこうである。	村越哲子 山本照子 高橋英子 佐藤千春 柴田隆幸 佐藤恵美子 藤田充代 磯貝和子
佐藤（中央開発企画部長）	岡本 和孝
令子（その妻）	光畠 春江
川田（中央開発秘書課長）	村松 勇
原田（コンサルタント）	中村 昇平
昌代（川田の愛人）	松山ひろ江
良子（令子の友人）	小杉 知子
照子（　　）	村田 静江
幸子（　　）	村木 早苗
ハル（佐藤家の女中）	石野 昌子

喜よし

【その2】  
「来年は是非聖人君子の役を頼む」  
「昨年「はさみ」で女たらしの役をふられたM氏、今年も「女は単なる道具にすぎないんだ、利用出来るものを利用するのが何故悪いんだ……」と云う様な役柄で家へ帰えればよき夫であり、ババである彼氏くさる事くさる事。長大嘆息して曰く  
「昨年の「白夜」でもウイスキーを飲んだO氏今年も第三幕、第三幕とたっぷり舶來の洋酒がたしなめる。然しウイスキーはお茶であるし、各種の洋酒はすべて粉末ジユースであるので腹がガブガブになる由。ビンを恨めしそうに眺め乍ら、「之が本物だつたらなあ。本物でないならせめてジユ

劇団だるまの代表者である村田政美君は、去る10月18日市民会館にて結婚にゴーライン！ 創團の男性の中では第一号なので大変なものでした。

「マー坊、オメデトウ！」『おヨメさんキレイだネ』『旅行はドコへ行くの』『ケンカスルナヨ』『おサケはヤメロ、タバコもヤメロ』三年ゴシだってネ、イイナ』マー坊ホントニオメデトウ

一人ほづちの若者よ  
かんから広場で手を結ぼう！

月に公演を予定し、劇団員全力をあげて、水、土曜日の稽古日には長崎屋前の玄忠寺に集まり、又いつも多くの若者達と接して話し合っていく様に務めています。一緒にお手伝いをしていただけませんか。そしてあなたも仲間になりましょう。君もそしてあなたも、さあかんから広場に集まりましょう。

これからもよろしく

稽古日は毎週月、木、夜6時半から。市役所下  
尾張町公民館です。ぜひ、おひまをみて、遊びに  
来て下さい。